

A large, irregular pink brushstroke shape serves as a background for the title text.

研究会参加者 実践報告

『子ども主体の造形あそび～鞆に入れたり出したりを楽しもう！～』 0歳児6名

実践報告まとめ

～子どもの姿～

- ・以前の造形あそびに使用した鞆に興味をもち始める姿が見られるようになってきた。また出したり入れたりすることも大好きでよくあそんでいる。
- ・友達のアそびに関心をもち始め近くに行つて関わろうとする姿も見られるようになった。

～育ってほしい姿～

- ・自分で想像してあそびを考える力
- ・じっくりあそびに入り込む

～大事にしたこと～

子どもたちの活動の妨げにならないように

- 子どものあそぶ様子を見守る
- 子どものあそびが発展できるように予測して準備しておく
- 必要な時には援助する
- 発見したことを共感する

お気に入りの鞆を見つけてたくさん集めていました。どうやったら全部持てるかなと何度もチャレンジ。こうしたら？と言いたいところをぐつと我慢していると自分で最後まで頑張りようやく持つことが出来、「見て！」と自信満々です。



～実践して気付いたこと・感じたこと～

・いつもは一種類の鞆だけを出してあそんでいるがいろいろな素材の鞆を準備してみると、子どもたちはどんな反応をするのかな？どの鞆が人気かな？など色々と想像をしながらあそびを始めました。牛乳パックやジップロックで作った鞆は出し入れがしやすく、よく遊んでいたが布の鞆は扱いにくさもあり不人気でした。カラフルなプールスティックは持ちやすく入れやすかった為、夢中で入れていました。一人で入れることが難しいときは保育者に手伝って！とアピールする姿がありました。自分でどんなことをして遊ぼうかな？と考えてみたり、友達がしている姿を見て、「あれは面白そうだな～やってみよ！」とやってみたり、保育者があそび方を提供しなくてもいろいろなことに挑戦する姿が見られました。子どもはあそびの天才だなと改めて気付かされました。



牛乳パックの鞆からジップロックの鞆に素材を移し替えようと頑張っていました。が鞆の口が安定せず上手く出来ずにいると、保育者の所へ来て袋を「持って～！」と差し出し、持ってもらおうと移し替えしやすくなったことで嬉しそうに入れ替えていました。全てを入れ替えると満足した様子。ご機嫌に腕からかけていました。

少しずつ保育者が仲立ちをしなくても関わる姿が見られるようになり、一つの鞆を二人でシェアする姿がありました。プールスティックをお菓子に見立てて、「どうぞ～！」「ありがとう！」のやり取りを楽しんだり、二人でパクパク食べたりする姿がありました。





かきかき・べったん だーいすき

実践事例

『子ども主体の造形あそび』

～しかけのある模造紙に絵を描いたりシールを貼ったりしよう～

*1歳児 6人

絵を描くことやシール貼りが大好きで、何度も楽しんできた。繰り返し遊ぶ中で周りの友達にも興味をもち、お互いに見合っ共感し、言葉や仕草でやり取りをして喜ぶ姿がよく見られるようになってきた。

今まで個々でシール貼りや絵を描いていたので、みんなで大きな紙で楽しんでみたいと思った。

☆育てほしい姿、ねらい

- ・手指を使って、シール貼りや絵を描くことを楽しむ姿。
- ・友達と、言葉や仕草でコミュニケーションをとることを楽しむ姿。
- ・先にシールを貼ってから絵を描くことに移行することで、シールを塗ったり、避けて描いてみたりと、自発的に考えて楽しんでほしい。

1日目

- ・用意したスペースにいくと、喜んでシールを貼り始めた。困った時だけそっと声をかけるようにし、見守った。
- ・しかけを触ったり、上を歩いたりしたが、シールをしかけに貼ろうとする姿はなかった。保育者が、隣で貼ってみせると、見てニコっとしたり、「わぁ」と喜んで共感できた。
- ・飽きてきた頃に水性ペンを出すと、みんな夢中で描き始めた。貼ったシールを塗ったり、しかけのない所に描いたりして楽しんだ。

遊びスタート!



シールしていい?

歩いてみよう



小さいシールがいいな

※長い四角が太い...?
※窓が大きい...?

しかけの大きさや太さを変えた

※新聞紙に書きちゃった! はみ出てる部分が広すぎた?

新聞紙を取った

※模造紙をつなげた方が大胆に描ける?

模造紙を2枚 つなげた

1日目 終了



改善して2日目!

今日は赤にしてみよう

- ・紙だけに意識が向き、より集中していた。
- ・前日より大胆な姿で描いたり、しかけを意識したりする姿を見ることができた。



きのうの続きで貼っちゃおう

☆大事にしたこと、工夫したこと

- ・自分でシールを選んで手に取り、やってみようと思えるようにシールの置き場所を考え、大小3種類の個数を多めに用意した。
- ・水性ペンは後で出せるように用意しておき、シールを貼ったところに自由に描いていくことを楽しめるようにした。
- ・紙の周りを行き来しやすいように、模造紙2枚の間を空けてセットし、下は、はみ出てもいいように広めに新聞紙を敷いた。
- ・模造紙のしかけは長い道やトンネル、窓の他、○△□やハートなど、なじみのある形から興味をもてるようにした。
- ・改善点を見つけて変更し、2日続けて実践した。

★実践を終えて...

- ・しかけをつけたり、少し変えたりするだけで造形遊びが広がった。
- ・子どもの姿を見て、しかけを改善することで2日目はより楽しむことができた。
- ・子ども同士が共感し合えたり、やり取りしたりと、関わりも増えることが分かった。
- ・声かけを減らしたことで、子どもの行動をいつもよりじっくり見ることができ、自発的な姿も多く見られた。
- ・回を重ねるごとにより楽しめたので、次は間隔を空けて一年を通して活動してみたい。
- ・0歳児や2歳児が遊ぶとまた違った姿が出てきたので、異年齢で遊ぶ時間をもっていきたい。

1歳児で遊んだ造形



1歳児が遊んだ後続きに0, 2歳児が遊んだ造形



0歳児3名・1歳児6名 令和5年2月3日（金）実施

「子ども主体の造形あそび～スポンジやヤクルト容器を使って～」



ん？これは
なんの箱？



イエーイ！
楽しい！！
いっぱい
はいるよー



のぞいて
みようー
っと！



ポットン！！
入ったよ



え？これ
くつつくの？

☆子どもの姿→靴を履くときのマジックテープをくっつけたり、剥がしたりすることに興味がある。室内ではポットンあそびが大好きでよく遊んでいる。

☆「ねらい」→自分であそびを見つけ、考えながら夢中になって遊ぶ。

☆準備する上で大事にしたこと、工夫したこと

- ・ヤクルト容器、ヨーグルト容器の消毒。
- ・ペットボトルの蓋が外れないように（外れて危険のないように）ビニールテープで巻いた。
- ・スポンジを口の中に入らない大きさにした。
- ・いろいろな大きさの穴を開けて仕掛けを面白いものにした（きっちりの寸法の穴や大きな穴も開けた）。

☆実践を通して気付いたこと、感じたこと

- ・準備したものをさりげなく置き、子どもたちがどのように遊び始めるか見守ることで、様々な自発的なあそびと子どもたちの可愛い仕草がたくさん見られ、発見となった。
- ・環境を変えたり、整えて少し工夫したりすることで、子どもたちにとって楽しい空間になるのだということを実感した。

【これまでの経過と子どもの姿】1歳児12名のクラス。これまで、シール貼りが大好きで何回もシールを貼って遊んできた。・壁に貼ったテープをはがそうとして、名前のマークシールをはがしたりすることもある。友達が面白いことを始めると同じように集まってやりたがるようになってきた。

【育ってほしい姿】主体的に素材や物に触れ、好きなあそびを見つけて夢中で遊んで欲しい。

【準備物】

- ・長さの違うビニールテープ・クッキングシート
- ・クラフトテープを巻いたダンボール



【準備をする上で大事にしてきたこと】

- ・必要以上に話しかけず、やってみたくなるようなきっかけだけつくってみた。
- ・子どもが主体的に楽しい遊び方を発見し、発展できるように十分な数のシートを用意して好きな場所に好きなだけ貼れるようにした。

【今までしてきた活動】

低月齢児にもはがしやすいように、硬さのある段ボールのシートと柔らかいクッキングシートの2種類をそと床の上に置いてみた。段ボールシートには長さの違うテープを貼ってみた。一人がすぐに興味を示し、テープをはがし始めた。他の子どもも気付いて近寄ってきたので十分な数に増やして置いた。テープをはがすと貼れる場所を探し出したので「どこに貼りたい？」と声をかけると、予想していた通り、棚に貼り始めた。指に巻き付けて、ぐちゃぐちゃに絡まる子どももいた。自然に友達との間隔を開けて貼っていた。時間がたつと壁だけでなく床にも貼りだし、シートごと貼る子どもも出てきた。高月齢児の中には、並べて貼る子どももいた。ひらひらとシートをなびかせて遊んでいる子どももいた。夢中で貼り、40分以上集中していたが、まだまだあそびが続きそうな子どもたちであった。

【実践を通して気付いたこと・感じたこと】

- ・夢中になって遊んで欲しい。あそびが続かないのは何故かを学び、環境を考え直した。しっかりと準備をしてやりたくなるようなきっかけづくりが大事であると分かり実践した。その結果こんなにも集中できるものなのかと驚いた。まだまだあそびが続きそうな勢いがあったので継続して遊んでいきたい。
- ・持ちやすい硬いシートも用意していたので0歳児にもはがしやすく良かった。
- ・長さの違うテープを用意したことで指に巻いたり丸めたり伸ばしたりして面白いあそびになっていた。
- ・はじめは一人ひとりが集中してやっていたが、友達と一緒にする楽しさに気付く、何人かのグループができていた。
- ・「いいよ」とだけ言ってみようと思っていたので、どんどんいろいろなところに貼りはじめ、あそびが発展していった。子どもをしっかり受け止めていくことの大切さを改めて感じる事ができた。



子ども主体の造形遊び～新聞紙ちぎりをしよう～

実践報告まとめ

◎子どもの姿

1歳児18名のクラス。後半に入り、友達に興味が出てきて友達の名前を呼んだり、一緒に遊ぼうとしたりする姿が見られる。また、干菓子の袋を指でつまんで破けるようになってきており、指先の力が強くなってきている。

◎育てほしい姿・ねがい

- ・保育者や友達と一緒に身近な素材に触れ、感触を楽しむ
- ・指先を使って新聞紙を破く



◎準備する上で大切にしたこと・工夫したこと

- ・ガサガサ、くしゃくしゃなど様々な感触を楽しめるように新聞紙は十分な数を用意した。
- ・声かけは最小限にして子ども自身の気づきや発見を大切にした。
- ・破るのが難しい子どもには切れ目を入れるなど、破りやすいようにした。
- ・保育者が仲立ちとなって気持ちや言葉を代弁し子ども同士の関わりをより楽しいものにする。

◎実践を通して気付いたこと・感じたこと

今回の新聞紙ちぎりの実践では、普段ままごとを楽しむ子どもたちの姿から、ままごとと発展していくことを想定して計画を立てた。しかし、いざやってみると「おばけつくって」と穴を開けたがったり、小さく丸めてボール遊びになったり、計画とは違う遊びへと発展していった。その理由を考察してみると、秋に葉っぱに穴をあけて“葉っぱおばけ”を作った経験や、お正月で風船つきをした経験があったからではないか、という結論に至った。

子どもたちの遊びは、日々の生活の中の様々な要素の積み重なりから成り立っているのだと思った。

実践事例『子ども主体の造形あそび ～はってあそぼう～』 1歳児 14人

実践報告まとめ

【子どもの姿】手先が器用になってきておやつ包装を自分たちで開けるようになった。椅子や机についているシールに興味をもちをはがそうとしている。

【ねらい】はったりはがしを楽しむ



シールをパタッ！

あらかじめ模造紙にクラフトテープをはっておいだことで、どこにはろうかなと考えながら楽しんでいました。テープの上のシールならはがせることに気が付いて、はってはがして楽しんでいる子どももいました。



これはがせるで！

クッキングシートにはって準備しておいたビニールテープよりもはがす難易度が高く、手先の器用な子どもを中心にはがすことを楽しんでいました。



みて～！かわいいでしょ
テープやシールを自分の手にはって楽しみはじめた子ども。それいいやん！と他の子どもおしゃれをして楽しんでいました。



箱の底にはりたい…！

段ボールのテープをはがしていたら、どうしても底にはりたくなったこの子ども。頭を突っ込んで必死にはっていました。無事はれると「できた…！」ととっても嬉しそうでした。

◎準備をする上で、大事にしたこと、工夫したこと

一番大事にしたのは、今興味のあることを思う存分楽しめるようなあそびにすることです。自分の使っているおもちゃを大事にしたい気持ちも強くなってきていたので、シールの数をたくさん準備しておくことで、それぞれに自分のシールを持ちながら好きなだけはったりはがしを楽しむように工夫しました。またそれぞれの興味に合わせて、シールの素材やはる対象を選べるような工夫もおきました。

◎実践を通して気付いたこと・感じたこと

このあそびは、休憩を挟みつつ50分程遊びこんでいて、今興味のあることや、やりたい！と思ったことを主体的に遊ぶからこそ集中して楽しめるんだと実感しました。シールをたくさん準備しておいた成果が出て、友達分のシールをとってきてあげたり、友達同士で同じ色のシールを嬉しそうにはったりして友達との関わりも見られました。シールの素材やはる対象が選べたことで、それぞれに「なにをどこにはろう」と考えながら遊び、自分のやりたいことができたことも遊びが盛り上がった理由の一つだなと感じました。

実践事例『子ども主体の造形遊び～穴がいっぱい～』

ねらい「使ったことがない玩具をみて子どもが遊びを考えようとする」

1歳児 18名

子どもの姿

穴に玩具を詰め込んでいる。輪があると腕や足を通して。個人での遊びを楽しんでいる。

準備する上で、大事にしたこと、工夫したこと

子どもがしていることを「ダメ」と止めずに済むように、子どもが触っても怪我をしないように淵をテープで覆ったり、口に入りにくい形状のものを用意したりした。どのように使うか決められていない、クラスでも使ったことがない玩具をみて子どもが遊びを考えられるように、朝過ごす保育室とは別の部屋に環境をつくった。数が少ないことで子どもの発想の妨げにならないように子どもに対して十分な数の玩具を用意した。組み合わせる使うことが予想される玩具は敢えて離れて置き、玩具の数は遊んでいる様子を見ながらそっと増やしていき子どもが気付いて使いたいと思う気持ちを大切にしたい。筒の太さや、輪の大きさを2種類ずつ用意し、組み合わせで試行できるようにした。

実践を通して気付いたこと・感じたこと

子どもが自分で遊びを見つけると、遊びの持続時間も長く次々に面白い使い方を発見していく姿があった。玩具を発見して見てみる、触ってみることに満足すると遊びを見つけた子どもから自然とその場に座り込んで遊んでいるので「走らないよ」「座ってね」と行動を制限したり、注意したりする言葉掛けがなく、ほっとりと過ごせた。保育者自身も子どもと身振りや言葉でのやり取りに応えようと関わることができた。遊びがまとまって、満足した様子の子どものから保育室に戻り給食の準備を始めると楽しかった気持ちのままで次の活動に移れたので落ち着いている様子だった。普段は友達と遊ぶ姿が見られなかった子どもが、遊び方を真似て一緒に遊んでおり、玩具を通して気持ちが通じている様子で見本を示して行う活動よりも子ども同士でのやりとりが増えていた。



見つけたボールを筒の上にのせてみた。輪が通らなくなったので、都度ボールを持って輪を通す。



会話はないが2人で、2本あるうちの同じ方に輪を通して。



たくさん腕につけてみる。



この筒にはこっちの輪しか通らないんだよと知らせているようだ。



手が見えた！（上の子）
ボール、出てこないで！（下の子）



ぽつとんを楽しんでいると、動かしたときにガサガサとなるのに気が付いて、中にたまっている輪を取り出そうとしている。箱の隙間に気付いて指を入れ、開けることができた。

「子ども主体の造形遊び(1歳児 18人)～スタンピング～」

☆わらい

・造形遊びを通して、夢中でその活動を楽しむ。また、友達や保育者とコミュニケーションを取りながら楽しむ。

☆準備する上で大事にしたこと・工夫したこと

- ・スタンプの数を多く準備することで子どもが好きなスタンプを選び夢中で活動を楽しめるようにした。 ・絵の具の色（色が混ざっても濁らないように選ぶ）
- ・スタンプの大きさや形（子どもが持ちやすいように工夫） ・仕掛けのある模様紙を準備し、より活動が楽しめるようにした。
- ・机を2台合体させ、上に大きな模様紙を広げる。これを3セット準備することで、広いスペースで思い切りスタンピングを楽しむ。また、子ども同士や保育者とのコミュニケーションが楽しめるよう設置した。

☆活動の様子

・準備物↓



・スタンプ
(ヤクルト容器に
スポンジ、網、気泡
緩衝材、段ボール
など)

・濡らしたタオル
に絵の具を染み込
ませておく。

・色は赤・ピンク・
オレンジを使用

・入れ物はパウン
ドケーキ型を使用



「次はあれする」「これする」とスタンプの形
を選びながら活動を楽しんでいた。
トントンと夢中でスタンプをする子ども、
スポンジのスタンプで線を引く子ども、
1か所に集中してスタンプをする子どもなど
個々によって様々な遊び方が見られた。



・仕掛けの紙をめくってみたり、そこにスタンプして遊ぶ
子どもの姿が見られた。
・「見て～!」とスタンプし
たことを嬉しそうに友達や保
育者に伝える姿が見られた。

子どもが仕掛けの周りをスタンプし
ていた。

↓
次は仕掛けの折り紙をはがしてみ
る。

↓
紙がはがれるときれいな四角い模様
を見つけることができた。

↓
友達や保育者と見つけた喜びを共有
する。



☆実践を通して、気付いたこと・感じたこと

- ・活動時間を十分にとることで子ども一人ひとりが満足して、気持ちよく終わることができるんだなと実践を通して感じました。
- ・実践の中で「待つ」「見守る」「受容する」ことを意識し、子どもたちに関わった。すると、子どもが自らスタンプを選んだり、どこにスタンプしようか考えたりと、自ら進んで活動に参加する姿が見られた。また、仕掛けがしてある模様紙を何も伝えずに、そっと置いておくと、子どもたちで発見し、めくったり、スタンプをしたりと新たな楽しみを見つけ、スタンピングを思う存分楽しんでいた。この姿を見て、子どもたちが主体的に取り組んでいるなど感じました。
- ・友達と一緒に取り組むことで、友達の様子を見ながら真似したり、思ったこと・感じたことを言葉にして友達に伝えたりと、友達との関わりを楽しむ姿が見られ、造形遊びは「自主性」だけでなく「社会性」も一緒に育てられていくと感じることができました。
- ・子どもが自分でどんな風に遊ぼうか考え、活動したことで、子どもによって様々な遊び方や表現の仕方があると気付きました。またそれが「豊かな感性」「自信」へとつながっていくことを子どもの姿を見て感じました。

◎これまでのクラスの様子

1歳児クラス18名、月齢による発達の違いが大きい為それぞれの興味に違いがあり、異なる遊びを楽しんでいることが多い。活動をしていてもそれぞれのグループに分かれている姿があった。様々な楽しみ方ができる造形遊びに取り組むことにより興味に違いがある中でも、自分に合った楽しみ方で同じ素材を使っている遊びを楽しんでいる。

◎ねらい

- ・指先を使いながら集めたり、並べたり、積んだりといった構造的な遊びを楽しむ。
- ・一人でじっくり遊びこんだり、保育者や友達と関わったりしながらそれぞれのペースで遊びを楽しむ。

◎活動内容

子どもたちにはプールのスティックを2cm幅にカットし、紙袋に包み一人に一袋ずつ渡した。環境として、ぽつぽつ落としや、コロコロ落とし、緩衝材がびったり入る箱やプラスチックの透明ケース、ワイヤーネットにS字フックやワイヤーラックをかけたもの等を用意し、それぞれの遊びたい方法で自由に遊べるようにした。

子どもたちはそれぞれ興味のある場所に向かい、遊びを楽しむコーナーを用意していたこともあってか、場所や物の取り合いなども起こることなく楽しんで遊んでいた。他の子の遊びに興味もちにくい子どもも、普段遊んでいるおもちゃをあえて残しておくことで、遊びに進んで参加していた。



いっぱいー！
(この中にも入れてみよう～！)

ここかけたよ！
ながくするー



ワイヤーネットの設置場所にはS字フックを準備し、緩衝材を掛けられるように設定していると、S字フックに興味をもつ子どもの姿も出てきていた。子どもの姿に合わせてS字フックをおもちゃの中に一緒にそっと出すと、子どもたちのほうから、「これも（使いたい）」と保育者に声をかけネットにたくさんかけて遊びはじめ、自分たちで遊びを発展させている様子も見られた。

◎準備するうえで、大事にしたこと、工夫したこと

個々の発達を見極め、それぞれの興味関心のあることをしっかりつかんだ上で環境を準備し、子どもたちが自発的に周りの仕掛けに関わり、遊びを考え楽しめるようにした。ポットン落としの中にはS字フックが入るサイズも用意し、様々な難易度で楽しめるようにした。おもちゃを口に入れて遊ぶ子どもの姿も見られるため、緩衝材の素材や、大きさにも配慮した。活動では遊びを子ども主体で進めていけるよう声掛けは最小限にし、「見守り」「共感」「遊びに夢中になれる空間」を意識して保育を進めることを担任間で共通認識できるように努めた。

段ボールで作った家型の箱に両面テープを貼り付け、緩衝材をくっつけられるようにした物を遊びの終盤に出してこすることで、周りに貼り付け構成遊びを楽しむだけでなく、子どもたち自ら箱の中に緩衝材を遊びながら入れて集められるようにした。



はいったー！！
こっちの小さいのは…？

いっぱい
くっつけようー！！
(この後全部中に詰めて遊びました)



◎まとめ

子どもたちの気持ちや思い、ひらめきや楽しさなどを共感することで、大きく声掛けをしなくとも子どもたちが主体性をもって遊びを展開し、遊び方や関わり方を伝えなくても自ら考えて行動している様子が伺えた。それぞれの子どもたちの発達をしっかりと把握し、その発達に沿った環境を設定すると遊び方は自然と発展し、長い時間でも集中して楽しむことが出来ていた。保育の中で発達に合った遊びをその時に提供し、「見守り」や「遊びに夢中になれる空間」の中で子どもたちは自然と遊びの中から学びとることが出来ると、とても感じた。遊んでいくなかで子どもたちが楽しみ考え出し、形作っていく楽しさが感じられる保育をしていきたいと思う。

2歳児 しかけあそび 出席10名 欠席3名

○育って欲しい姿…今までは個人や少人数でなぐり描きを楽しむことが多かったので、みんなでのびのびと楽しむ。

○準備する上で大事にしたこと・工夫したこと

- ・しかけであそびたい子どもや、何もないところに描きたい子どもがいて予想したので、しかけのある部分と何も貼っていない部分を用意した。
- ・子どもたちが好きなだけシールを貼れるように二種類の大きさ・十分な量のシールを用意した。
- ・しかけを貼り付ける際、子どもたちの目の前で貼り付けていき、興味をもてるようにした。



ちびいシールだから
はがすのむずかしい…

ほく、あかいろすきだから、
あかいシールせんせいあつめてきて！



めいめいしたらめがねになったで！



シールのうえからめいめい…
みて！かくれんぼしてるよ！

トンネルにべったんべったん…



実践を通して気付いたこと・感じたこと

- ・シールのケースを2サイズ・2つずつ用意していたが、シールをたくさん持ちたい子どももおり他の子にシールが行き渡りにくかったため、一人ひとりに個人マーク付きのシール入れを渡すことで、それぞれが十分にシール遊びを楽しめたのかなと感じた。
- ・今回は一番初めにクレヨンと丸シールを同時に出した。しかし、どちらかを後から出してみるともっと違うあそびの展開があったのかなと感じた。
- ・小さい丸シールも用意し、はがすのを難しそうにする子どもが多かったが、諦めずに自分でやってみようという姿がよく見られた。

実践事例 子ども主体の造形遊び ～光と色の科学遊び～

(2歳児 11名)



すなにいろうがついた！



せんせいみて！！
かがひかっているで。



いっしょに遊ぼう！

〈子どもの姿〉

・ごっこ遊びや簡単な集団遊びなどを楽しっており、友達と遊ぶ姿が増えてきた。またイメージしたものを表現することが好きで立体の大きな家や動物園などを友達と協力してつくる姿がある。その中で好きな色だけで作ったりブロックの色や形にこだわったりしている。また、朝の朝のやつのラムネの包装で「ピンクみえた。」や「しろはでんきがオレンジになるで。」など色や光に興味をもっている。

〈育ってほしい姿〉

- ・太陽の光やカラー板を使って楽しく遊びながら自然の不思議さに気付く。
- ・色の違いや見え方など、気付いたことを伝え合う。

〈事前準備で大事にしたこと〉

- ・あえて使い方を知らせずに、子どもが主体的に遊びを広げられるようにしておく。
- ・カラーセロファンをラミネートしたカラー板は怪我をしないようにストローで保護する。
- ・色が混ざってもきれいに見える色を選ぶ。(赤では色が強すぎるためピンクにするなど)

〈実践して気付いたこと・感じたこと〉

- ・遊び方を伝えなかったが自分たちで思い思いに遊び、気付いたことを言葉で伝えようとしている姿があった。保育者がそれを共有するとほかの子どもたちの遊びが広がっていった。
- ・2歳児だけでなくほかのクラスの子どもの外に出ていたため異年齢児での遊び方の差があった。2歳児も十分楽しめていたが、やはり3歳児のほうが遊びを展開できていたので継続して遊ぶことで面白さや色や光の不思議さに気付けるようになると思った。
- ・「せんせいみてみて」という子ども発信の言葉が多く、子どもだけでなく保育者も楽しめた。

せんせいが
あおにみえる～！



実践事例【子ども主体の造形遊び】

2歳児24人

【子どもの姿】

一年間を通してなぐり描きやシール貼りを取り入れると、それぞれの表現を楽しむ姿が見られた。大きな模造紙にみんなでなぐり描きやシール貼りをした際も、集中して遊び込む姿があった。

【ねらい】 描いたり貼ったりを繰り返して楽しむ

どのコーナーも子どもたちが主体になって楽しめるよう、取りやすく選びやすい工夫をした

2

〈おえかきコーナー〉
牛乳パックのペン立てで
手に取りやすく



2

〈シール貼りコーナー〉
大・中・小の丸シールを準備
好きな大きさを選びながら、指先の
発達を促せるように

1

〈画用紙選び〉
○△□の画用紙を準備
形や色の違いに興味をもてるように



一つ貼ったらまた次へ！

たくさん貼ってすずらんテープ
が一本から三本に！



3

〈すずらんテープ〉
どの子どもも手の届く
高さに



実践を通して気付いたこと、感じたこと

- ・一年間を通してなぐり描きやシール貼りを取り入れてきたことで、おえかきコーナーとシール貼りコーナーを自由に行き来し、存分に楽しむ姿が見られた。繰り返し何度も楽しむ中で、すずらんテープも初めは一本だったが、三本まで増えた。
- ・発達の個人差が大きいクラスだが、なぐり描きだけを楽しむ子どもや、すずらんテープの間を線路や道に見立てて通る子どもなど、それぞれの遊び方で楽しむ姿が見られた。
- ・縦につなげた仕掛けを作ってみると、その隣に同じように長くつなげて楽しむ子どもがいた。ほとんどの子どもはすずらんテープに貼ることが楽しい様子だった。もう一度同じ活動を取り入れ、姿の違いを見てみたいと思う。
- ・すずらんテープに貼るために置いていたビニールテープだったが、ウサギの耳にしたり丸シールの上からはったりするなど、ビニールテープも表現の一部になった。改めて子どもの発想の面白さを感じ、それを尊重できる保育をしたいと思った。
- ・一時間ほど遊び込む姿が見られ、造形遊び終了後に「せんせーまたしよー」という声が自然と出てきた。

つづきしよー♪

夕方の長時間保育でも
楽しみました！



自分のかごに入れる
ことが楽しい！

友達と一緒に！

長時間保育での遊びの
マンネリ化が解消！

実践事例「子ども主体の造形遊び」 ～カプラで遊ぼう 2歳児（12名）～

牛乳パック・お菓子などの箱・トイレットペーパーの芯

実践報告まとめ

〈子どもの姿〉

- ・自己主張が盛んで、友達もっている物が欲しくて取ろうとする姿もある子どもたち。必要に応じて保育者の仲立ちで「かして」「ちょうだい」「ありがとう」のやりとりをしている。
- ・好きな遊びを見つけると、じっくりと遊べる子どもが多く、集中して遊ぶ時はトラブルが起きることなく、友達との関わりももちながら楽しんでいる。

〈育みたい姿〉

一人ひとりが好きな遊びを見つけて楽しむ中で、考えたり、試したりする力や友達と関わったり、共感したりする力を育んでほしい。

★カプラとともに、いろいろな小箱や仕掛けのある箱を使って、

どんな遊びができるかな？

その名も「カプラランド」

箱を自由に選んで、好きな場所で
カプラと組み合わせて遊んでみよう!!

トントントン
いらっしゃい



ごっこ遊びに
発展したよ



ポテトです



いっぱい落ちた
集めよう～



上からポットン
下でキャッチ!

★落ちたカプラ
を集めるうちに
偶然発見した
遊びにみんな
が大喜び!

上から横から
箱にさして



↓誕生会ごっこ



ローソク
いろう～

〈実践を通して気付いたこと〉

- ・自分で選び、遊びたいと思えるようにカプラの数や箱の種類を多くし、環境作りを工夫した。丁寧に準備をすることで、一人ひとりが集中して遊び、遊びに満足したら、「お腹すいたなあ」と、片付けを意欲的にした。
- ・初めて見る仕掛けのある箱には、ヒントのカプラだけを置き、遊び方を簡単に知らせることで、自分の好きな遊び方を見つけ、子ども主体の活動につながった。
- ・子どものいろいろな表現や発見を認め、共感する声かけをすることで遊びが発展し、子ども同士の関わりも多く見られた。

実践事例『子ども主体の造形遊び～たべものづくり～』

2歳児クラス 18名

子どもの姿 制作遊びが大好きな子どもたちで、絵の具やのり、なぐり描き、スタンプなどを楽しんできた。

ままごと遊びで使ったこ焼きやホットケーキ、ピザなども今までに制作してきている。

具体的に作るものを決めずに制作するのは今回がはじめてである。

ねらい 「のりを使って、工夫して貼る。」

内容 白い丸い紙に、大小、色形様々な画用紙をのりで貼って、お店屋さんごっこで出す「たべもの」を作る。

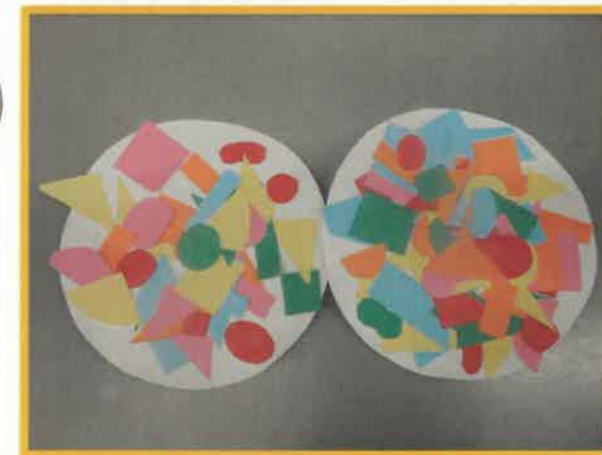
1, 準備するうえで、大事にしたこと、工夫したこと

自分で好きな色、形、大きさの紙を選んで、貼ることができるよう、紙を十分に準備した。

落ち着いてじっくり造形遊びができるように1つのテーブル3～4人ずつ座り、のり、画用紙を入れるお皿なども1人1つ準備した。

食べ物の種類は決めておかず、子どもたち自身が作りながらイメージを広げていけるようにした。

「お店屋さんのたこ焼き屋、ピザを作って遊んできたけど、今日はみんなの好きなものをつくってみようか?」「いろんな色、形大きさの紙をたくさん持ってきたから（紙を見せながら）、お皿に貼って「たべもの」をつくってみよう」と伝えた。



2, 実践を通して気付いたこと・感じたこと

作るメニューを決めていなかったのも、「ピザ」「ゆきだるま」「パパ」「でんしゃ」など食べ物以外までイメージを広げながら作る子どもがいた。

のりの使い方がまだ難しい子どもには、保育者が側につき、のりの使い方を丁寧に伝えた。

制作に集中している子どもは、時間いっぱい重ねて貼り楽しめていた。

お皿も白くて丸い紙だけでなく、もっと様々な色形大きさのものをたくさん用意しておけば、もっと主体的な活動になったと考える。

大きな紙にみんなで絵を描こう！

子どもの姿（2歳児 24人クラス）

造形遊びが大好きな子どもたち。これまではぬたくりやデカルコマニーなど様々な技法を使って個人の作品を作ってきた。今回は、言葉数が増えてきた子どもたちが、保育者や友達と一緒に言葉のやりとりをしながら楽しめるようなお絵描きを立案した。

育てほしいねらい

- ◎友達との関わりをもち、思ったことや感じたことを自分なりの言葉で伝えたり、言葉のやりとりを楽しんだりする。
- ◎イメージしたものを自分なりに表現することを楽しむ。

子どもたちの大好きな絵本
「とんとんとん」
かずきくんちはどこだろう？



みてみてー
アンパンマン描いてん

シールぺたぺた楽しい♪ クッキングシートにマスキングテープを貼ったものも用意



これパトロールカード

友達絵を見て話す子どももいました

忍者さんから電話がかかってきたよ♪

忍者村で絵を描こう！



☆実践を通して気付いたこと・感想

- ・この活動のねらいを達成するために、導入時に子どもたちの大好きな忍者さんから「絵を描こう！」と誘いがあったことを伝え、忍者ごっこのひとつの遊びとして取り組めるようにした。描く前から「〇〇描きたい」という子どもも多く、描き始めてからは言葉のやりとりが楽しいと思えるように「何描いたの？」「すごいね！」と言葉をかけて全体を回ると、「長いおいも〜」「チョコレートアイス」とそれぞれ嬉しそうに話していて、多くの子どもがイメージを膨らませて描いていたように思う。活動中は一人ひとり集中してほぼ同じ場所で絵を描いていた。子どもたちの言葉を受け止めて褒めることはできたが、友達絵に興味をもてるような言葉がけがもっとできたらよかった。しかし、隣の友達絵を見て、自分も描きたいと思って同じ乗り物の絵を描いたり、シールを周りの友達に配ったりする姿もあった。
- ・子どもがなるべく自分のタイミングで終われるように見守っていたが、次の活動時間が迫っていたので、タイムタイマーで終わりの時間を知らせた。「もうすぐ終わりですよ」と声をかけてから、タイマーを鳴らすまで5分もなかったのも、ゆとりをもって予告すべきだった。

☆準備をする上で大事にしたこと

- ・この1年間、子どもたちは忍者走りでかけっこをしたり、散歩コースで忍者の家を探しに行ったりと、忍者ごっこを楽しんできた。子どもたちの興味・関心を大切に、導入では大好きな忍者さんから電話がかかってきて、「忍者村に絵を描きに行こう！」と誘いがあったことを伝えた。絵を描く時間が終わると「にん！」とポーズを決めて、自分の終わりたいタイミングで終わるようにすることで子どもの満足感を大切に。また、大きな紙にドアのしかけをすることで、2月の「わいわいあそぼうかい」（参観）でしたドアをノックする遊びも楽しめるようにした。
- ・クレパスを持って紙に描くふりをして「みんなは何を描きたいかな？」と呼びかけ、やってみたいという気持ちを引き出せるように工夫した。また、子どもの「鳥描いた〜」「ブルドーザー」などの言葉を受け止め、「すごいね」と楽しい雰囲気ややりとりし、シールを繋げてエレベーターをつくったり、何色も色を並べて描く時の子どもの工夫や面白さを認めて自信につながるようにした。

☆子ども主体の造形遊び(2歳児)☆

牛乳パックを使って自由に遊ぼう

2歳児 7名 今の子ども姿(2023.2.7)

- ・子ども同士が言葉でコミュニケーションが取れるようになり、しっかりと自分の思いやイエス・ノーを伝えあえるようになってきた。
- ・指先が器用になり、ハサミや糊を思い通りに使えるようになってきた。
- ・積み木やブロック遊びでは、友達と繋げて線路や道路を一緒に作る姿も見られる。
- ・保育者の使うテープに興味をもち、「使いたい」と熱望している。

ねらい

- ・自由にテープを使って繋がることを楽しむ。
- ・友達と関わりながら遊ぶことを楽しむ。
- ・出来上がりのイメージや最終目的なく自由な発想で、積む、繋げる、くっつける等の行為そのものを楽しむ。

環境

- ・2歳児保育室・展示用の小机
- ・カーテンレールに麻紐を数本吊るしておく。

大事にしたこと：日々の子どもの興味、関心をよく観察すること。指先を使う、形が自由に変えられる物であること。いろいろな遊びに展開出来ること、1人でも、友達と一緒に関わって遊ぶこともできる遊びであること。

準備物

- ・牛乳パック(底部分、輪切り部分)
- ・厚紙にクラフトテープを貼り、ビニールテープを適当な長さで貼ったもの。(めくりやすいように端を少し折る)
- ・洗濯バサミ、ペットボトルキャップ、麻紐、スズランテープ



～活動を終えて～

私自身は、共感し寄り添う、方向性を示さない、を实践。

どの子も夢中で遊び、一つの遊びの中から色んな展開をしていく子、あれもこれもしてみたくてフロアを駆け回り、友達の実演をしたり、アイテムを物色したり、と楽しみ方や遊び方も様々であった。十分な時間、空間、準備物があつたことはもちろん、保育者からの「こうしよう、こうやで」なしの自分だけのお楽しみの時間。本当に楽しんでいる様子が見えた。それがとても嬉しかった。

最初は「どうやって遊ぶ?」と聞いてくる子もいて、「どうやって遊ぶ?」と同じ言葉と同じテンションで答え、様子を見てみると黙々と貼ったり重ねたりと遊び始め、もう聞いてくることはなかった。この「指示待ち」の子どもをつくらせてはいけない!と感じた瞬間でした。個々の個性や月齢、習熟度にもよりますが、パーツを並べてゲーム(ボーリング)をする子、友達と電車ごっこを楽しむ子、テープ貼りに夢中な子、吊るした紐にひたすら貼る子と、それぞれに夢中で遊ぶ姿があつた。

全員が「またしたい!」と伝えてくれ、今でも手に取れる所に置いてあり遊んでいます。こんな時間があつてこそ豊かな表現をする力や想像力が育まれるんだと実感できた活動となり、とても興味深く勉強になりました。

- 1、準備する上で、大事にしたこと、工夫したこと
 子どもが主体的に活動できるような環境構成をすること
 ⇒多種多様な大きさ、形の空き箱を用意する
 テープを取りやすくする（クッキングシートに貼り付ける）
 テープの長さを3種類用意する、色は赤、青、黄色
 机や椅子の配置（子どもが自由に道具を取れるように配置する）

＜子どもの姿＞

- ・生活や遊びの中で友達と言葉のやり取りをしたり、友達の姿を真似したりと自分から関わろうとする。一方で、自分の気持ちを伝えるために大きな声を出すこともある。
- ・身近な物や絵本に出てくる物や登場人物に見立てて遊んだり、作ったりする。
 ままごとコーナーで、お弁当作りやピクニックごっこ
 ブロック遊びで、お家や動物園、工事現場、乗り物を作る

＜これまでの活動＞

1回目 空き箱で自由に遊んでみる！
 ふたを開ける、踏む、積む、並べる、玩具（ままごとの食材）を入れてお買い物ごっこ

2回目 空き箱と新聞紙で遊ぼう！
 新聞紙を丸めて空き箱に入れる（お弁当作り）、空き箱に新聞紙を入れる（玉入れ）、新聞紙を広げる、新聞紙をちぎる

3回目
 空き箱を高く積もう！
 一人で、友達と一緒に、
 空き箱を高く積んだり、長く並べたりする

＜ねらい＞

- ・「表現したい」「作ってみたい」という意欲をもつ
 →子どもの思いを肯定的に受け止め、共感する
- ・造形遊びの楽しさや面白さを味わう →保育者自身も造形遊びを楽しむ
- ・偶発的にできたものの面白さを味わう
 →定型に捉われず、子どもの発見や気持ちに共感する

＜この活動の子どもの姿＞

空き箱にテープを貼る、剥がす



「おうちつくった」
 「すべりだい」
 と空き箱と空き箱をテープでくっつけて作る姿



「おやまができた」
 「ぶよぶよ」
 テープの貼り方、形に興味をもって、貼り方を工夫する姿
 空き箱をつぶしたり、踏んだりしてテープが動くのを見る姿



「たかいよ」「こっちにおいて！」
 空き箱を積み上げて、崩すを繰り返す姿、
 友達の積み上げたものも崩そうとする姿もあった

2、実践を通して気付いたこと・感じたこと

環境構成、事前準備をしっかり行うことで、子どもが主体的に活動する姿が見られた。また保育者自身が造形遊びを楽しみつつ、試行錯誤しながら遊ぶことで、子ども自身も考えたり、友達の遊びを真似たりする姿が見られ、多種多様な遊び方が生まれていた。

繰り返し空き箱遊びに取り組むこと、環境構成に力を入れることで、今回の実践では子ども自身が夢中になって遊んでいた。

保育者の関わり方や環境構成が子どもが主体的に活動すること、夢中になって遊べる空間を作ることに関わると改めて学ぶことができた。

『子ども主体の造形遊び～トイレットペーパーの芯で遊ぼう！～』 2歳児22名

み～つけた！

◎ねらい

- ・指先を使いテープを貼ったり芯を立てたりする。・イメージしたものをつくろうとする。
- ・遊びの中で友達と関わり、言葉のやり取りを楽しもうとする。

◎子どもの姿

- ・外国籍、援助が必要な子どもが多く、コミュニケーションをとるのが難しい姿がある。また、トラブルになることも多く、保育者が仲立ちとなりながら遊んでいる。
- ・トイレトレーニングが本格的になり、トイレットペーパーに興味をもっている。

◎準備する上で工夫したこと

- ・トラブルにならないように十分な数の芯を用意した。
- ・段ボールに芯を立てやすいように突起をつけたり、並べて遊べるように丸く切った画用紙を貼ったりと、仕掛けをつくった。
- ・中に新聞紙をつめた物や半分に切った物等様々な大きさの芯を用意した。
- ・ビニールテープをクッキングシートに切って貼り、取りやすくした。毛糸、スプーン、切った画用紙、ポンポン等を用意した。



○自由遊びコーナー（畳）



・転がりやすいように、向きを考えて転がす姿があった。下に溜まることを楽しんでいた。



・指先を使い、力加減を考えて芯を立てていた。立てて並べた芯を初めは手で倒していたが、途中で近くにあるボールを投げボウリングに見立てて遊ぶ姿があった。芯の上にボールを置いたり小さい芯を立てたりと工夫していた。

○制作コーナー（フローリング）

《ビニールテープ、毛糸、折り紙、画用紙、スズランテープ、シール、スプーン》



・ビニールテープを指先で1つずつ取り、重ねる、並べる、内側と自由に貼っていた。



・小鳥を作り、ジュースを飲ませていた。
・スプーンでまぜ、ご飯をつくりごっこ遊びに発展していた。

・折り紙を中に入れ、ビニールテープで2つの芯を繋げたり周りに毛糸を巻いたりして想像を広げていた。

◎実践をして気付いたこと、感じたこと

- ・保育者が遊び方を示さなくても自分で考え、保育者にはない発想で楽しんでいることに気付き新たな発見があった。
- ・制作コーナーと自由遊びコーナーに分けたことで、広いスペースだったこともありトラブルになることがほとんどなくそれぞれ集中して取り組んでいた。また、自由に行き来することで45分と長い活動だったが、大抵の子が最後まで飽きずに楽しんでいた。それと同時に、遊び方が分からない、イメージがもてない子どもには難しい活動であったため保育者の細やかな声掛け・援助、経験を重ねていくことの大切さを改めて実感した。
- ・自由に遊びながらも「かして」「どうぞ」等と言葉のやり取りをしながら友達との関わりがあったり、順番というルールを取り入れ守ったりと、身に付けてほしいと願っている姿が見られ嬉しく感じた。少人数ずつゆったりと遊ぶことで遊びが深まっていることも見て感じ取ることができてよかった。

子ども主体の造形あそび～紙粘土でピザづくり～ 3歳児 22人

実践報告まとめ

★食べることが大好きで給食の時間はいつも大盛り上がりのちゅうりん組の子どもたち ある日絵本の中に出てきたピザの写真を見てつくりたい！と
言ってくれました！ そこでコックさんになりきって生地からこね、紙粘土でピザをつくりました！

準備する上で、大事にしたこと・工夫したこと

○準備物・紙粘土、画用紙、折り紙、はさみ、モール、絵の具、ケチャップの容器、ピザの写真

⇒できるだけ本物をつくる工程と同じように、生地（紙粘土）をこねたり赤い絵の具をケチャップに見立てて容器に入れ絞るなどしました

具材はモールや画用紙や折り紙などを用意し、子どもたちが自由に見立ててつくれるよう工夫しました

まずは、生地をこねこね、、、



ケチャップを塗って、、、

ひろげたら、、、



作った具材をトッピング！

実践を通して気付いたこと・感じたこと

- ・子ども達は完成したピザを見て、「本物みたい！」「お腹すいた！」などと楽しんでつくってくれたようだった。
- ・今回材料をこちらから見立てず子どもに任せたが改めて子どもたちの発想の豊かさに驚かされた。
- ・「また作りたい」と言ってくれていたので次は好きな料理を一つ選んで取り組めたらと思う。

☆実践を終えて・・・

・今回の実践は計画したものではなかったが、普段から子どもが今、興味のあるもの・楽しんでいるものが分かっていたら、別の取組でも子どもたちが十分楽しみ、新たな姿を見せてくれ次の保育につながる事が分かった。



〈子ども主体の造形遊び〉

3歳児クラス（30人） スクラッチ遊びをしよう！！

ねらい

造形遊びを通して子どもの発想や新しい発見、絵を通して描く楽しさや面白さを知ってほしい。

準備をする上で大切にしたこと

- ・意欲的に取り組めるように色塗りを子どもたちと一緒に取り組んだ。
- ・子どもが自由に選べるように色々な形の画用紙を準備した。
- ・好きな形で色々なスクラッチ遊びができるように多めの枚数をつくっておいた。

子どもの姿

友達や保育者との会話の中で「〇〇かもしれない」「〇〇したらいいんじゃない？」と子どもの発想で考えて発言している姿がある。そこから遊びに発展させていて、子どもの世界観で展開させている。

数名、失敗を恐れて絵を描くことが難しい子どもがいるため、子どもたち皆が楽しめるようにしたい。

●準備物●

- ・〇△□▽の形に切った画用紙
- ・クレパス（色塗り用）
- ・割りばし 鉛筆削りで削ったもの（13本）
削ってないもの（14本）
- ・鉛筆（3本）

●子どもの様子●

- ・色塗りの際、好きな形を選び、灰色や黄土色等普段使わない色を選んで使っていた。
- ・スクラッチの時は友達の作品を見ながら真似をしてみたり、できた作品を見せ合っていたりしている姿があった。また、スクラッチに絵を描いて楽しんでいる子どもや黒の部分なくなるまで削っている子どももいた。

★一日目★

～色塗りをしよう！！～

〇△□▽の形に切った画用紙にクレパスで塗った



★二日目★

～スクラッチをしよう！！～

一日目に塗り絵をしたスクラッチを削った



反省点

一日目を色塗りと黒塗りをし、二日目にスクラッチをしたため、クレパスが馴染んでしまい、綺麗な色が出にくい様子であった。また、鉛筆より、割りばしの方がクレパスの色がやすいようであった。

実践を通して気付いたこと

子どもの興味に合わせた造形遊びをすることで、より一層意欲的に取り組んでいたので子どもの興味を知っていくことが大切だと感じた。また、子どもがやってみたいと思える準備物や環境設定が大切だと感じた。

子ども主体の造形あそび～大きな紙にみんなでお絵描き～（3歳児・20人）

～子どもの姿～

- ・気の合う友達同士で一緒のあそびを楽しむことが増え、「〇〇してあそぼう！」など誘い合って遊ぶ姿が見られるようになってきている。
- ・ぬりえや絵を描くことが好きな子が多く、集中している姿がよく見られる。

～ねらい～

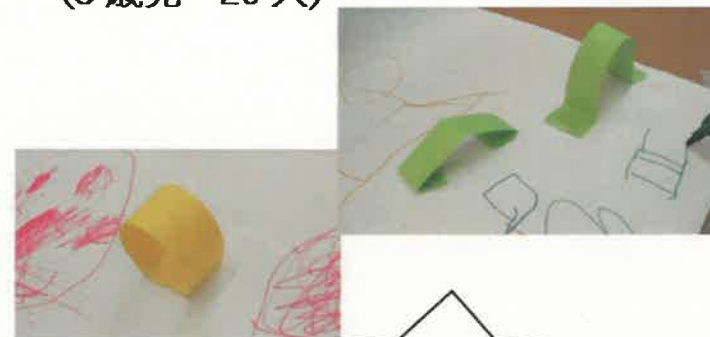
- ・自分のイメージするものを自由に表現する
- ・友達と一緒に描くことを楽しむ

トンネルを使った表現も色々！

- ①道を描く
- ②服の模様にする
- ③線路を描いて、水性ペンを電車に見立ててその上を走らせる



3グループ(5～6人ずつ)に分かれて、1枚の模造紙を用意しました。
初めにトンネル(画用紙)を貼ってから、水性ペンを使い絵を描きました。



丸や三角などトンネルの貼り方も工夫が見られました。

①



②



③



子どもたちがのびのびとお絵描きを楽しめるようにスペースを十分に確保しました。自分の好きなキャラクターを描く子どももいれば、トンネルを使ってお絵描きを楽しむ子どももいました。

友達が道や道路を描いている姿を見て「〇〇せんかな?」「ぼくもかいてみた!」など友達の表現するものに興味をもちたり、「じぶんもかいてみたい!」と思って同じように描いてみたりと友達同士で言葉を交わしながら楽しむ姿も見られました。

子どもが主体となって自分のイメージするものを表現する姿を見守り、認めていくことで一人ひとりが楽しく、最後まで満足するまで遊ぶことができたのではないかと思います。

〈子ども主体の造形遊び〉

3歳児 16人クラス

子どもの姿

ハサミで一回切りを何度か行ったことがある。

制作が大好きで積極的に取り組む

育ってほしい姿 指先を使いハサミを使うことを楽しむ

保育者の話を聞いて約束を守って遊ぶことを楽しむ

準備物 ハサミ、画用紙、紙皿（大、中）、卵パック、切ったものをを入れる袋、糊

環境 3歳児クラス保育室 机を二つ並べ、ハサミの場所と糊の場所をつくる

○初めての2回切り

4人ずつ名前を呼び保育者と確認しながら、2回切りを行いました。ハサミの持ち方やルールを伝えてから行くと、持ち方に気を付けながら集中して取り組み、切った画用紙をズボンやソーメンと言って見立てながら作る子どももいました。また、保育者が思っている方向ではない方向にとっても長く切っている子どももあり、2回切りだけでなく連続切りなどで様々な長さや形に切るなど、様々な大きさに切って楽しんでいました。

ズボンみたい

ソーメン作ったよ



○切った画用紙は

紙皿に入れたり、画用紙に貼ってご飯やラーメンに見立てたり、ビニール袋に画用紙を入れブロックとつなげライトを作り探検ごっこを楽しんでいました。



＜実践を通して気付いたこと・感じたこと＞

○ハサミは怪我に繋がりやすいので、持ち方など安全面に気を付けることが多く、なかなか保育に取り入れることができていませんでした。今回、子どもたちのとても楽しそうな姿からまた取り入れたいと思いました。また、切った画用紙をズボンと言って形を工夫して切っている子どももいたため、人を描いた絵に上から貼るなど更なる遊びにつなげたり、作ったライトで次の日も探検ごっこをしている子どももいたため、中身の画用紙をセロファンに変えてみたりするのもよいのではないかと思います。4歳児クラスに向けてハサミの持ち方が不安な子どももまだいるため、できるだけハサミを使う機会を増やしていきたいです。



実践事例 「子ども主体の造形遊び～リュックを作ろう～」

○子どもの姿

- ・ごっこ遊びが好きで、普段から友達とやりとりをして遊んでいる。
- ・昨年お弁当散歩に行ったことを「また行きたい！」と思い出に残っていて、次の散歩を楽しみにしている。
- ・制作が好きでイメージをもって描くことを楽しむ子どもが増えてきている。

○育てほしい姿、ねらい

- ・造形遊びを通して「こうしたい」「こんなこともいいな」と自分で考えて表現する。
- ・リュックに何を入れるのか、イメージをもって好きに描くことを楽しむ。

○準備するうえで大事にしたこと・工夫したこと

- ・この活動をするまでも、保育の中で散歩ごっこをするなど、本活動につながるように意識をした。
- ・子どもがやりたいと思えるように、カバンの形を選べるようにした。
- ・クレパスで手が汚れることが嫌な子どもに濡れたタオルを用意するなど、一人ひとりが楽しく活動できるように子どもの行動や姿を予想した。

○実践を通して気付いたこと・感じたこと

- ・リュックを描くときに、保育者が見本を見せるのではなく「リュックに何入れたらいいかな～」と言葉を投げかけるだけで、子どもたちから「おべんとう！こっぷ！」など自分たちで考えていう姿が見られて、子どもたちの想像力に感心した。
- ・友達と向かい合わせで制作をすることで、子ども同士で「いっしょやなー、ぼくも同じのいれよー」などやりとりをしていたので友達からの刺激も大切なんだと感じた。
- ・普段は手が汚れることが苦手な子どもが、友達と見せ合いながら制作すると手が汚れても気にせず遊び続けていたので、夢中になれる活動を取り入れていきたい。
- ・つくって終わりではなく、その後のごっこ遊びにつなげることで子どもの創造ややりたいことも広がっていったので、保育のつながりを意識しようと思った。



いらっしやいませー！

みてみてー！ぼくもぶどうかいたー！
(友達が描いているのを見て)



ここにもかいていいの？
ゲームももっていくー！



ここでいっしょに食べようよ！
スコップいるからとってくるね！

今回子ども主体で制作をすることで、子どもたちのイメージが広がってきていることや、友達とのやりとりから遊びにつながっていくところを見ることができました。リュックを描くと、友達のものを見て刺激を受け「自分も！」とより意欲をもって描く姿が見られました。

好きなリュックを作り、背負って散歩ごっこをすることで、何が必要かを自分たちで考えスコップを持って来たり、一緒に飲むジュースを用意したりと発展させていました。散歩ごっこをすることで「また公園いきたい！」と次の散歩への期待にもつながっています。

子ども主体の造形あそび～模造紙でお絵描き～（3歳児17人クラス）

実践報告まとめ

私が大切にしてきたこと

今の子どもの姿や友達との会話を見たり聞いたりする中でどんなあそびが楽しいのかを考え、子どもたちが無理なく参加できるものを活動に取り入れた。集団活動が苦手な子どももいるため、子どもの好きなことを環境として用意し、一人ひとりが活動を楽しめるように心がけた。また、友達と一緒に遊ぶことが楽しい時期なので、保育者や友達と一緒に遊ぶ楽しさを感じられるような声掛けを行いながらあそびが展開できるようにした。

子どもの姿

- ・友達同士で会話をしながら一緒に遊ぶことを楽しんでいる。ごっこあそびでは、自分や友達と役割を決めて遊ぶようになった
- ・絵を描く活動を行ったときは、顔を描くのが楽しくて何人もの顔を描いて楽しんでいる。
- ・支援の必要な子どもも好きなあそび（電車あそび）を保育者に見守られながら遊んでいる。

ねらい

- ・自分の思いを言葉や絵で表現する
- ・保育者や友達と一緒に遊ぶことを楽しむ。

活動の導入

活動の前日に手作り電車をつくった。一人ひとりが牛乳パックを電車やバスなどに見立てて「〇〇のでんしゃ!」「まどとたいやがいるね」と子どもがイメージして絵を描いていた友達が書いている姿を見て真似して自分も同じもの描いている姿もあった◎



模造紙にお絵描き



実践を通して気付いたこと・感じたこと

子どもが好きな色塗り、絵を描く、電車遊ぶなど、子どもの興味に合ったものを取り入れたあそびの環境を整えたことで、無理なく子どもたちが十分に遊ぶことができた。手作り電車と絵を描く活動を分けて行ったことで、あそびへの期待をもつことができた。真っ白な紙に自由に絵を描くこともいいが、線路や建物を環境の1つとして用意したことで、子どもたちはイメージしながら、ここは公園、ジャングル、アイス、にじいろの線路を描いていたことに驚いた。またごっこあそびでは、自分たちの描いたものを見立てながら、アイスを買に行ったり、公園に動物、ジャングルには恐竜を置いてみたりなど、子どもの発想が豊かでこれが主体的な遊びだと実践して感じる事ができた。また、集中力が短い子どもも1時間じっくり遊ぶことができ、あそびの環境作りで子どもの姿は変わることを知るきっかけとなった。

～ 子ども主体の造形遊び ケーキだいすき！ 4歳児 17名 ～

実践報告まとめ

★これまでの子どもの姿

・自己表現が苦手なクラス。色々な遊びを通して意欲が高まってきた。行事で使う小道具や大道具を自分でつくったり、背景をみんなで協力して描いたり、それが自信となってきている。しかし「描く」ということへの不安感が一人ひとりの中にまだある。

★ねらい→大事にしたこと、工夫したこと

- ・自分なりの楽しさや面白さを見つけよう！→色々な形、色、大きさにできるような題材にし、正解にこだわらなくてよいようにした。一人ひとりのこだわっていたところを見つけて共感するやり取りを大切にした。
- ・保育者や友達とやりとりしながら、安心して遊び（描くこと）を楽しもう！→何度も繰り返し選んで遊べるようにしたことで自信をつけたり、新しい発見があったり、安心感の中でできるようにした。

1回目：トトロになった絵の具を見て「クリームみたい！」と喜びワクワクしていた。初めてで少し緊張している様子。トトロになった絵の具が混ざりあうのを楽しんだり、イチゴのトッピングを繰り返し楽しんだりした。○△□、大中小の色々なケーキの形から「どれがいいかな～」と選ぶを楽しんでいた。

2回目：前回の色に加えてチョコの色、フルーツの色を用意しておき、子どもの様子や言葉に合わせて出していく。前回の経験によって描くこと自体に迷いはなく「チョコのケーキ好きやからそれにするわ！」「フルーツタルトにしたいなあ」「どんなんにしよかなあ」とイメージしている姿があった。終わりは自分たちで決めて満足した子どもから終了していった。



いちご
いっぱい
する♪

つぎチョコ
かして？



3回目：前回使った色で画用紙にケーキパーティの絵を描く。前回終わってから「もっと大きいケーキにしたい！」「まだやりたいな」という声があがった。大きな画用紙を4色から好きな画用紙を選んで描く。「何かいいにおいする！」と子ども同士でにおい合ってお互いの顔をみて笑いあったり、どっちがおいしそう？と友達に見せて選んでもらったりとやり取りが見られた。「ケーキパーティやからママとパパと呼ぶわ」と言い出した子どもがいて描きたい子どもは描き始める姿があった。



パーティ
やから
プレゼント
いるで



パパとママ
にもきても
らう！



★実践を通して気付いたこと・感じたこと

- ・一人ひとりの表現をクラスの保育者で共有しあってみんなで受け止めたことでどんどんいろんなアイデアが出て一緒に楽しめた。工夫やこだわりに気付いたり、その子が面白がっていることに面白く共感できたりしているのが実感できた。否定的な言葉や言葉かけの多さには常に意識してきたが、言葉は特に必要なく自然と静かな活動になっていた。描く行為そのものを楽しむ姿が見られた。
- ・造形遊び、描くことが苦手だった子が「わあー！！」と発見に驚き楽しんでいたり、ケーキを描いた後に「いいにおいする！」と言ったり。主体的な遊びの中での表現も表情も豊かになってきた。
- ・「季節」「行事」とらわれた「作品」になっていたことに気付くことができた。「今」何だったらこの子どもたちに面白がってもらえるかな。と今の姿に以前よりも目を向けることができるようになった。試行錯誤し実践してみても子どもたちの反応を見てまた悩んで…の繰り返しを楽しみながらすることの面白さを感じることができてよかった。

〈子ども主体の造形あそび〉「5歳児20名 ペーパー芯を使ったクーゲルバンあそび」 (ねらい)友達と一緒に考えたり、あそびを工夫したりして、あそびが広がっていく楽しさを感じる。

実践報告まとめ

☆研究会で学んだことから私が大事にしたこと

- ・材料は十分に遊び込める量を準備しておく。
- ・決まった場所にかぎらず、子どもの発想をヒントにあそびをひろげる。
- ・子どもたちが満足するまで遊べるように十分な時間を保証する。

◎子どもの姿①

本物のクーゲルバンでは、2～3人で協力して遊んでいるが、途中からの友達の参加が受け入れられなかったり、トラブルが発生したり長続きしない姿が見られている。
 他の遊びでも同じような姿が見られる。

◎子どもの姿②

みんなと同じ遊びをする時は、少し離れたスペースへ行き、遊ぶ子どもがいる。

芯をつなげてレールをつくる遊びではなく、友達が転がしたどんぐりが落ちてきた所を、缶のふたで落とさないようにすくうことや、「カン！」と音が鳴ることを、友達と一緒に楽しんでいる。

壁から芯が落ちないようにとても丁寧に貼っている。



坂がキレイに繋がっていることや、どのくらい角度をつけたら、うまく転がるかを、友達と一緒に確かめながら作っている。



友達同士で(こんなふうになりたい!)とイメージをもってはじめた。
 「こうしよう!」「それやったら、ひっかかるで」うまく転がすことに夢中になっている。

造形あそびで学んだことを大事にして実践した結果

☆目がかがやいていた!

「もっと高いところにつなげていきたい!」「落とし穴にしたい」など子どもの発想に対して保育者が答えを言うのではなく、子どもが自らが付くような言葉かけや、ジェスチャーなどで「あ!そうか!」とひらめき、取り組みだす楽しさを感じていた。

・ひらめきや工夫がどんどんと子どもから出てきた。

・普段は遊びが短時間で変わっていく子どもたちが、午後からも続きを楽しみにするほど全員が夢中でずっと面白がって遊んでいた。

・子どもの工夫や考えている姿を見ながら、どんな声かけやきっかけであそびが広がるのか観察しながら、大人もワクワクして楽しんだ。

子ども主体の造形あそび「大きな紙にみんなで絵描き」＜3歳児 14人＞

実践報告まとめ

○子どもの姿

- ・絵を描くことが好きな子どもたち。いつもは小さい紙で絵を描いている。紙いっぱいに絵を描き、はみ出してしまうこともある。
- ・友達のことを気にしたり、「一緒に遊ぼう」と関わることが増えてきた。

○大切にしたこと、工夫したこと

- ・子どもの興味ある絵を描くことを活動に取り入れ、一人ひとりがたくさん描けるスペースを用意し、子どもが喜んで伸び伸び遊べるようにした。
- ・遊べる時間を十分に確保し、子どもの自由な表現や発想を発揮できるようにした。
- ・子どもたちが表現したことを肯定的に受け止め、保育者も一緒に楽しんだ。

○ねらい

- ・保育者や友達と大きな紙に自由にダイナミックな表現を楽しむ。

まずは人物やダイナミックに大きな丸や形を描く子どもの姿が見られた



😊 出来た!!!

のりでは上手いかず
テープをはるとトンネルが
つくれることに気付く



トンネルつくる!

つけへん。テープでしてみよ



池つくってんねん!



これは雪降ってんねん!

😊 同じシールでも...

同じシールでも全く違う表現をしている。また最近あった出来事をイメージして表現していた。

😊 やってみたい!



〇〇君みたいなトンネルつくりたい!!!

友達がトンネルをつくっている姿に刺激され、やってみようとする。またできなくて困っていると「こうやったらできでー」と助けてあげる姿があった



子どもたちの描く絵がどんどん広がり、もっと線路を描きたい気持ちに応え追加で模造紙を用意する

「線路描きたい」の一言から、「私も」「僕も」とみんなで線路を描く

折り紙したい!という子どもがいたので、折り紙コーナーをつくる



テレビ



線路



ガソリンスタンド

実践を通して気付いたことは、子どもの興味あることは長い時間集中して遊びこめることを知った。あそびに十分な時間を確保することで、「もっと描きたい」「折り紙したい」「トンネル作る」と子どもからの発信であそびが広がり、子どもの自由な表現や発想を引き出せたと感じた。また、机の上ではなく、床の広いスペースで絵を描くことで、よりダイナミックな表現が出来たと思う。友達の工夫や気付きを他児に知らせることで、「やってみよう」とする気持ちが広がっていった。友達ができなくて困っていたりすると、助けてあげたり、教えてあげる姿が見られた。「何かいてるの?」「〇〇ちゃんと手つないでるねん」「一緒にしよ」等、友達との関わりも多くあった。

『子ども主体の造形遊び～紙パックで遊ぼう～』

3歳児クラス・24名

○遊びの様子

○子どもの姿

- ・周りの友達のことをよく見ている。周りの影響を受けやすい子どもが多く落ち着かず、遊びを転々とする。お絵描きは、なぐり描きが多かった。
- ・夏頃から繰り返し造形遊びを経験する中で、描くことの楽しさを知り、自ら繰り返しお絵描きを楽しんだり造形遊びを楽しんでいる。

○育ってほしい姿

- ・イメージを共有しながら、友達と一緒に造形遊びを楽しむ

○準備する上で大事にしたこと・工夫したこと

- ・画用紙の大きさは大、中、小と自分たちで選べるように3種類準備する。
- ・環境は、子ども同士で関わり合いながら取り組めるように机の配置を向かい合わせにする。
- ・画用紙の裏面には両面テープを貼り、自分で剥がして牛乳パックに貼れるようにする。



バスが好きやから描いたよ！



子どもがひらめいて顔と体と別々の画用紙に絵を描きました



裏面には髪の毛を描いています



紙いっぱい貼ったよ！！

電車を連結させたよ～



画用紙の制限をしていなかったのでもちも絵を描いて貼って楽しんでいます。



○実践を通して気付いたこと、感じたこと

- ・机を向かい合わせにしてグループ活動にすることで、子ども同士のやり取りも増え、周りからの刺激でヒントをもらい、遊び方が広がる姿があった。
- ・しかけがあるだけで、じっくりと遊び込めることが分かった。
- ・紙パックの回収が多くなかったため、今回は一人一つの紙パックで遊ぶ形となった。数が十分あれば、遊びがもっと広がったように思う。
- ・活動の終わりに、クラス全体で何を描いたかみんなの前で発表する機会をつくる。他の子の作品を認める姿や活動が楽しかったという共有をみんなですることができた。

両面テープの使い方はこの活動の前週で取り組んだ鬼のお面の制作活動の中で使い方を知らせていたので戸惑うことなくスムーズに両面テープを剥がしていた。



☆4 歳児 造形遊び スクラッチ☆

テーマ 一人ひとりの豊かな表現を育むための造形活動の在り方を探る

4歳児 22名



準備するうえで大事にしたこと・工夫したこと

名刺サイズの画用紙を用意。

クレパスを明るい色、濃い色に分ける。

先に明るい色で塗りつぶし、上から濃い色で重ね塗りをする。



今までの子どもの姿

絵を描いても自由にイメージしたことを楽しく描く半面、「間違っちゃった」などと言って描き直そうとすることがある。



育ってほしい姿

正解、不正解ではなく、自由な発想やイメージしたことを大切に、好きな色や形など自由に表現することを楽しんでほしい。



実践を通して気付いたこと

割りばしペンを使ってハートや星などの好きな形や自分や友達の顔を描くことを楽しみました。

名刺サイズなので、すぐに塗れた子どもは2枚目、3枚目と違う色でスクラッチを楽しんでいました。



実践を通して感じたこと

完成したものはシールタイプの透明リフィルに入れて部屋に飾りました。自分の作品や友達の作品を嬉しそうに見て、「またしたい」という声もたくさん上がっていたので、表現することを楽しむことができてよかったと思いました。

★子ども主体の造形遊び(4歳児:23名)★「カブラと廃材遊び」

子どもの姿

- ・見立て遊びが得意な子どもたちが多く、日中からラキューや折り紙つくるのが好きで遊んでいる。
- ・少ない数の積み木で友達とのトラブルになることがある。

ねらい

- ・広い空間で友達と一緒につくることを楽しむ。
- ・カブラを取り合いせず、子どもたちが自由に考えてつくる。
- ・友達と協力して完成させる。

準備するうえで大事にしたこと、工夫したこと

- ・今、子どもたちが興味あるものを準備した
- ・子どもが自由に遊べること
- ・カブラをたくさん準備し広いスペースを確保する
- ・見立て遊びが得意なので少しの廃材を出すこと
- ・保育者の声掛けを少なくし子どもたち同士の会話を大切に楽しめるようにした

実践を通して気付いたこと・感じたこと

- ・カブラと廃材を組み合わせ楽しんでた
- ・1つのものを友達と協力して大きなものをつくっていた
- ・友達と同じものをつくってみたり、自分がイメージしたのをつくらして楽しんでいた
- ・子どもたち同士の会話が増えたように感じた

お菓子箱に
カブラを入れて
いた。



たこ焼き
カブラでたこ
焼き器をつく
りキャップで
たこ焼きをつ
くっていた。



電車
カブラで線路をつ
くり、お菓子箱を
電車にしていた。
箱にカブラを入れ
て人が乗っている
ようにしていた。



友達と協力して高
いタワーをつくっ
ていた。届かなく
なると椅子に乗り
工夫していた。



子どもの様子

- ・ホールに移動する前から楽しんでいた。
- ・「遊んでいいよ」の声がかかると中のよい友達や一人でカブラを持ち遊ぶ姿があった。
- ・広いスペースを利用したので、友達の作品に当たったり蹴ったりすることがなくトラブルになることがなかった。
- ・子どもたちに廃材との組み合わせの遊び方を伝えていなかったが自分たちで組み合わせ遊んでいた。



やぶれるかな？
カブラをたくさん
のせて新聞紙が
やぶれるか試し
ていた。



ポテト
カップの中にカ
ブラを入れてポ
テト屋さんをし
ていた。みんなに
配っていた。

ケーキ
カブラとゼリー
カップを使いケ
ーキを作っていた。
ケーキ屋さんをし
て楽しんでいた。



カブラを3つ準備した

今後の課題

- ・今後もカブラと廃材を組み合わせ取り組んでいきたい。
- ・廃材の種類を変えたり、試行錯誤して取り組んでいく。

考察

- ・子どもたちの遊びを共感したり、褒めることで遊びの輪が広がり、夢中になって遊ぶことができていた。
- ・イメージしたものをつくらしたり、友達と協力して1つのものを完成させたりと楽しんでいた。
- ・普段カブラと廃材と一緒に使うことがなかったため最初は戸惑いがあったが保育者がきっかけをつくり遊びを楽しんでいた。

たき火
子どもたちがカ
ブラと新聞紙を使
って遊んでいた。



研究会で学びになったこと

研究会に参加して

- 「造形あそび」＝「何か作品を作る活動」「季節や行事の制作」と捉えていたが、「活動そのものを楽しむ」ことも「造形あそび」だと知った。
- 「子ども主体」とは、「一番難しく、答えはないが近づけることはできる」という講師のことばが印象に残った。
- 「子ども主体のあそび」とは、子どもが「面白そう」「やってみたい」「やったらどうなるかな？」と思えるようなあそびだと知った。そのための環境づくりの重要性も分かった。
- 子どもが好きなことをするだけでは「主体」ではなく、子どもの豊かな表現を支えるためには、保育者の指導や援助も必要であり、指導が入口になっても「子どもの主体性がある保育」はできることを学んだ。（指導と主体のバランス）

実践を通して気付いたこと・学びになったこと

- 造形あそびの計画を立て実践することで、子どもの小さな興味・関心を見つけ、それを遊びにつなげて主体性を育てていくような保育を行うことができた。
- 自身の造形あそびへの苦手意識が、苦手な子どもの思いや考えに気付ける強みになることに気付けた。
- 準備が少なく、言葉かけの多い保育から、事前準備をしっかりし、言葉かけをしすぎず共感の場を大切にする保育に変わってきた。
- 研究会に入るまではここまで一つひとつの活動を突き詰めて考えることがなかったが、環境一つ、準備一つにしても、もっと悩んで子ども主体を考えていかなければと気付いた。
- 子ども一人ひとりが活動に取り組む中で、どう感じているのか、どんな表情をしているのかを以前より丁寧に感じ取ろうと意識するようになった。



～講師の総評～

この研究会は「子ども主体」というキーワードを軸に、造形遊びのあり方を考え直すものとなりました。「造形」＝「季節・行事の制作」といった考えが多い中、その活動が本当に「子ども主体の造形遊び」になっているのかを問うことからスタートしました。0～2歳児では、子どものなぐりがきやシール貼りを使って保育者が制作することが当たり前となっており、3歳以上児も見本を示しての制作によってみんな同じ表現に陥っているという現状があり、どちらもできあがりの作品に向けて、どのように取り組むかといったところに先生方の意識が向いているように感じました。

そこで、「子ども主体」とはどういうことか、子どもが夢中になって遊び込める造形遊びとはどんなものなのかを提案させていただきました。何度も実践と振り返りの討議を重ねていくことで、素晴らしい実践発表を迎えることができたと思っています。0～2歳児では、子どもが思わず遊びたくなるような環境（モノ・場）を設定し、子どもが自分で遊び始めるのを待ち、見守る、そして子どもの見つけた遊びの楽しさに共感したり、応答的に関わったりすることで、子ども達が長時間、遊び込んでいたという実践報告がありました。また3歳以上児でも、指導をきっかけに、自分達で展開していく様子なども報告されていました。さらに、子ども同士のやり取りが増えたという声が、0～5歳児のどの年齢でも出ており、「子ども主体の造形遊び」は自分なりの表現に向かうだけでなく、造形を通して人と関わる楽しさも感じられる活動だということにも気付けた実践になったと信じています。

この研究会でそれぞれの先生方が気付いたり学んだりしたことを各園に持ち帰っていただき、園全体で共有し、今後も継続的に「子ども主体の造形遊び」に取り組んでいただければと思います。

保育者が何をしたいのか、何をさせたいのかというのではなく、今、目の前にいる子ども達が、何に興味・関心をもっているのかをしっかり見極め、子どもの発達の実情に合わせた、また発達の過程を見通した活動になることを願っています。

造形教育研究所
こどものアトリエ

村田 夕紀

